

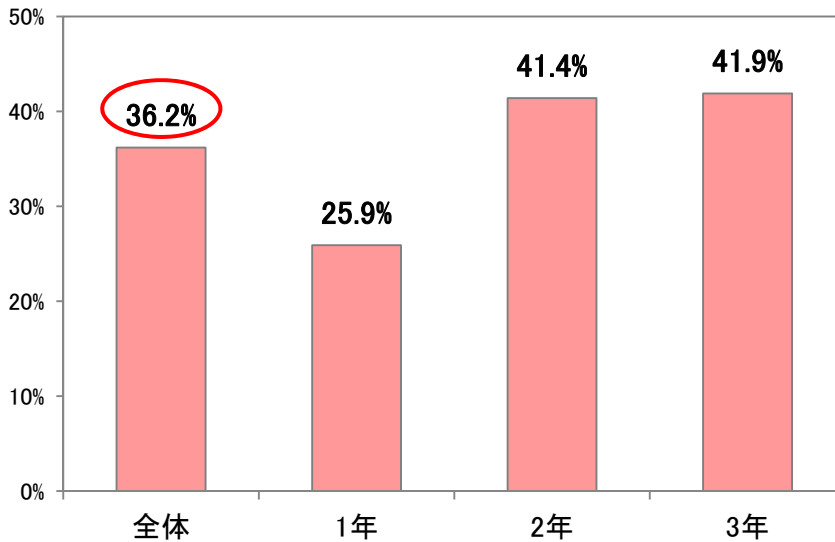
【参考資料①】中学生・小学生の眼科検診調査

■検診概要

- 実施時期: 中学生 2010年7月15、16、29、30日 / 小学生 2011年11月7、8、14、15、17日
- 受診対象者: 内灘中学校 1～3年生 / 鶴ヶ丘小学校・清湖小学校 1～6年生 (石川県内灘町)
- 検診人数: 中学生 312名 / 小学生 493名
- 検診担当: 金沢医科大学 眼科学 佐々木 洋 教授

【グラフ1】

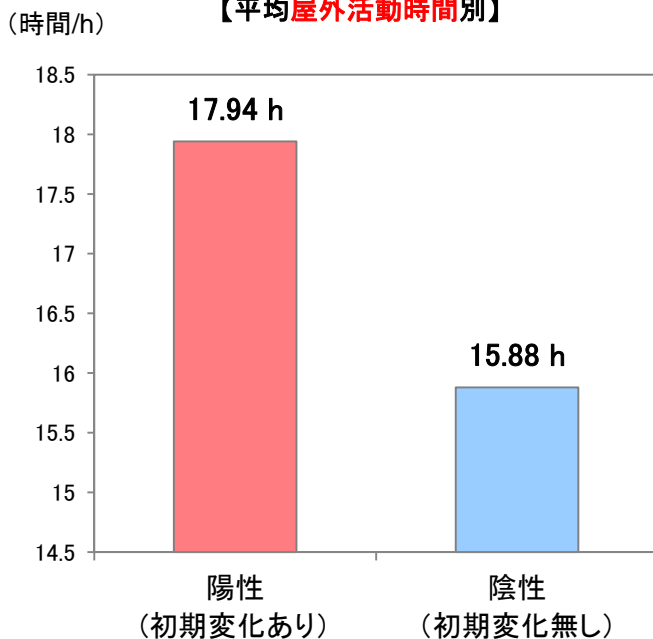
中学生の「¹⁷「¹⁸「¹⁹「²⁰「²¹「²²「²³「²⁴「²⁵「²⁶「²⁷「²⁸「²⁹「³⁰「³¹「³²」初期変化の有所見率 (n=312)



特殊な光をあてて撮影した
「¹⁷「¹⁸「¹⁹「²⁰「²¹「²²「²³「²⁴「²⁵「²⁶「²⁷「²⁸「²⁹「³⁰「³¹「³²」初期変化

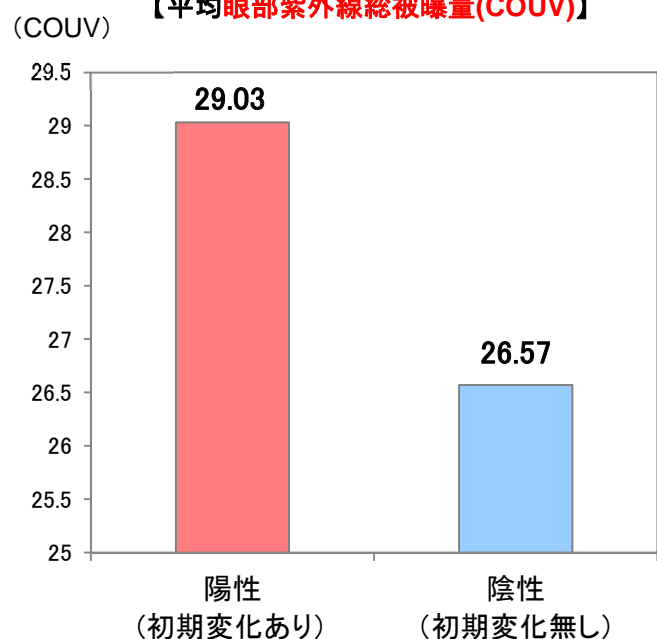
【グラフ2】

中学生の「¹⁷「¹⁸「¹⁹「²⁰「²¹「²²「²³「²⁴「²⁵「²⁶「²⁷「²⁸「²⁹「³⁰「³¹「³²」初期変化の有無(n=312)
【平均屋外活動時間別】



※屋外活動時間
=小学生時の屋外活動時間×6
+中学生時の屋外活動時間×(学年数-0.5)

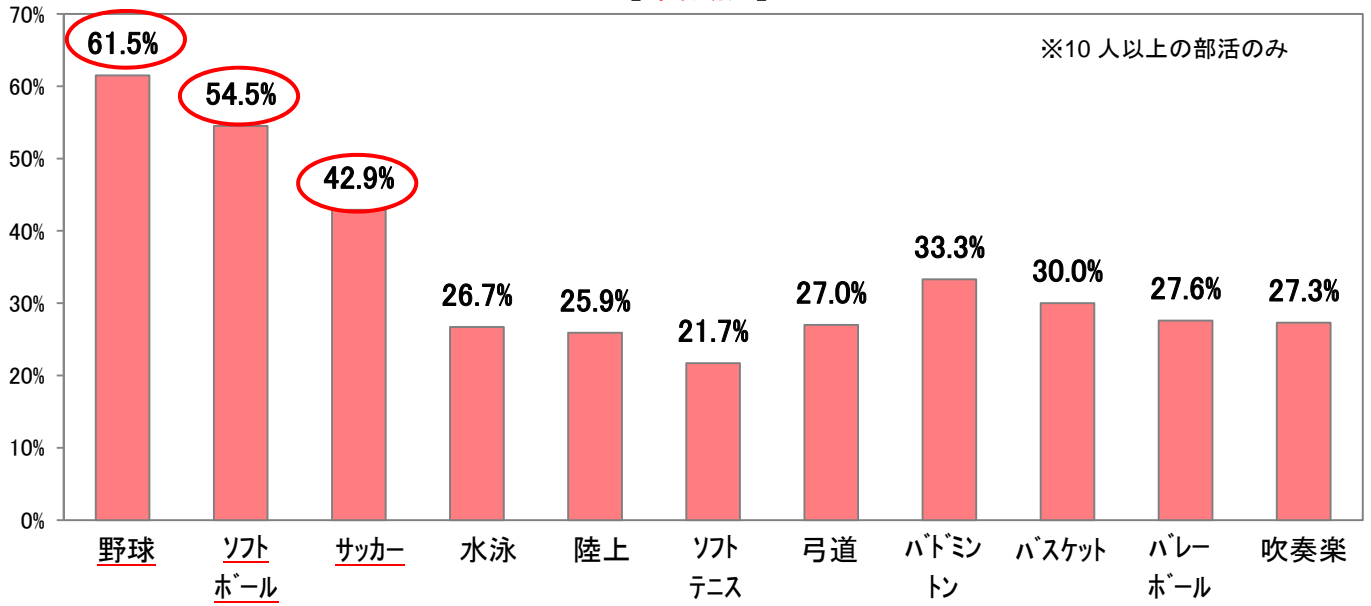
中学生の「¹⁷「¹⁸「¹⁹「²⁰「²¹「²²「²³「²⁴「²⁵「²⁶「²⁷「²⁸「²⁹「³⁰「³¹「³²」初期変化の有無(n=312)
【平均眼部紫外線総被曝量(COUV)】



※小学校入学以降の戶外活動時間と、眼部紫外線対策防御アイテムの使用暦から眼部紫外線総被曝量を算出。

中学生の「瞼裂斑」初期変化の有無(n=293)

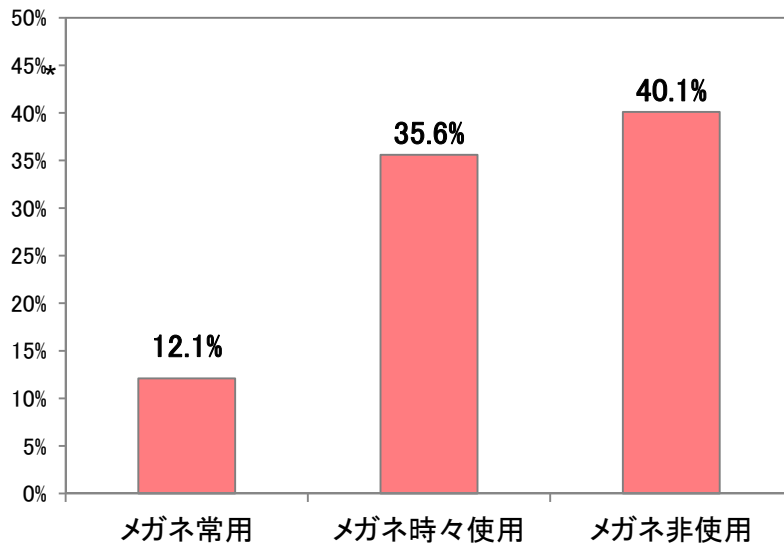
【部活動別】



【グラフ 3】

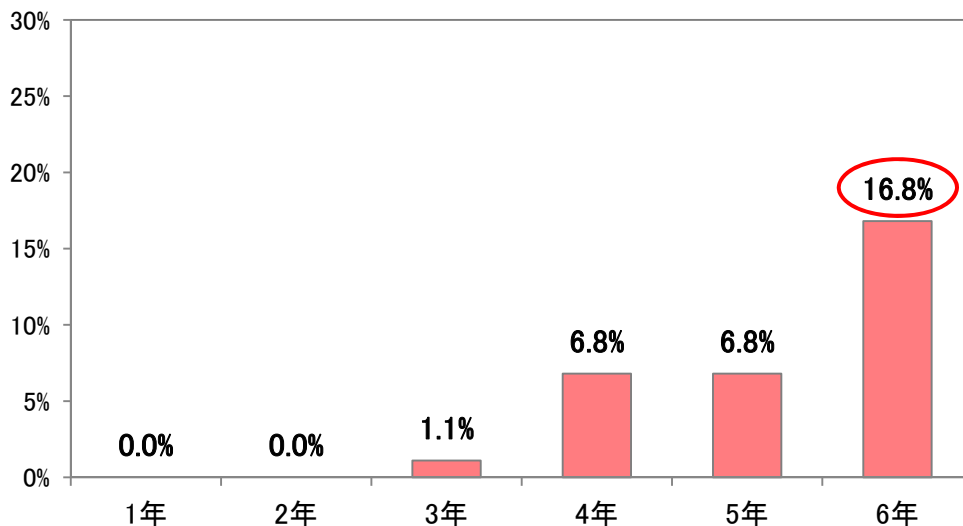
中学生の「瞼裂斑」初期変化の有所見率(n=295)

【メガネの使用状況別】



【グラフ 4】

小学生の「瞼裂斑」初期変化の有所見率(n=493)



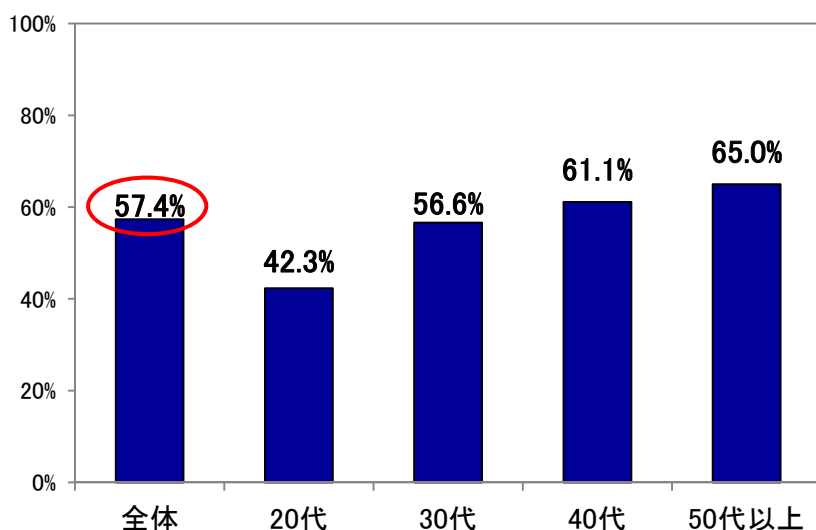
【参考資料②】 都市部のオフィスワーカー眼科検診調査

■ 検診概要

- 実施時期: 2010年9月6、7日
- 受診対象者: ジョンソン・エンド・ジョンソングループ社員
- 検診人数: 298名(平均年齢38.4歳)
※結果データは、UVFP 写真撮影をしなかった1名、メガネ・コンタクトレンズの使用歴・使用状況・使用年数のいずれかが不明だった25名を除いた、**272名**(平均年齢38.4歳)で分析。
- 検診担当: 金沢医科大学 眼科学 佐々木 洋 教授

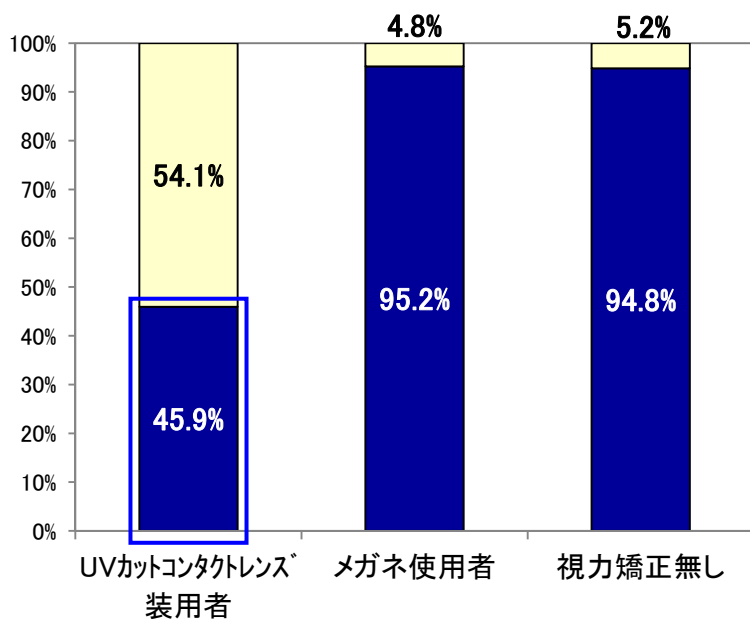
【グラフ5】

“眼のシミ”のような症状が出る
「**瞼裂斑**」の有病率 (n=272)



【グラフ6】

「**瞼裂斑**」の発症位置の違い
(n=116, 右眼耳側の**瞼裂斑**有所見者のみ)
【視力矯正方法別】



- 黒目と白目の境目から離れた位置から発症(周辺型)
- 黒目と白目の境目から発症(輪部型)

← UV カットコンタクトレンズ装用者は、黒目と白目の境目から「**瞼裂斑**」を発症している人が少ない。

【参考資料③】各国の紫外線対策への取り組み

■ オーストラリアでの紫外線への取り組み

- ・ 国際的なガン予防協会である「ビクトリア ガン協会」主催により、『Sun Smart』と呼ばれる紫外線対策のプログラムを 1980 年代初めからスタート。
- ・ 「Slap, Slip, Slop, Seek, Slide キャンペーン」と称し、紫外線を防ぐ方法として、「帽子、洋服、日焼け止めクリーム、日陰の利用、サングラスの着用」を推奨。

Slap – Hats (つばの広い帽子の着用)
Slip – Clothing (肌を覆う洋服の着用)
Slop – Sunscreen (日焼け止めクリームの使用)
Seek – Shade (日陰の利用)
Slide – Sunglasses (UVカットサングラスの着用)

- ・ 幼稚園や公園の屋外の遊具に屋根を設置して日光を防御。
- ・ 市街地では、樹齢 100 年以上の木を残して日陰として利用。
- ・ 小学生から高校生に対して、紫外線の有害性や具体的な対策についての指導を実施。
- ・ 一部の地域では、条例で子供の頃からのサングラス着用を義務付けている。



■ アメリカでの紫外線への取り組み

- ・ 米国環境保護庁主導のもと、「サンワイズ UV 対策学校プログラム」により、子供の時からの紫外線対策について啓発。
 - 「紫外線を避けるための活動」を「SunWise」と称し、UV 対策の7か条の一部として、つばの広い帽子や UV カットサングラスの使用を推奨。

SunWise Kids
SunWise Home • Kids Home

It's fun to play in the sun, but did you know that too much sun can be bad for you? If you ever had sunburn, you have felt some of the bad effects of too much sun and ultraviolet (UV) radiation. Too many UV rays can cause more serious health effects too, such as skin cancer, older looking skin, and other skin problems, cataracts and other eye damage, and weakening of the immune system. (The immune system is what keeps us from getting sick.) Children need sun protection education since too much sun when you are young may lead to skin cancer later in life.

The good news is that you can prevent UV radiation from hurting you. You need to practice good sun safe habits when you are young. You should stay safe all of your life.

This web site will help you learn more about the harmful effects of the sun and teach you ways to protect yourself. With fun activities like the "Who Wants to Be SunWise" maze game and action steps, such as wearing a hat, sunglasses, and sunscreen, you will learn simple ways to protect yourself.

If your school joins the SunWise Program and orders a UV meter, they will receive the SunWise toolkit that includes a activities and a UV Anemometer. With the meter you can measure how much UV radiation reaches your town. You can enter the UV information on the SunWise web site. Then you can look at the data and compare UV numbers with the National Weather Service's UV Index.

SunWise Challenges
Ozone Layer
UV Index
SunWise Action Steps

出典：the SunWise School Program, United States Environmental Protection Agency.